

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成25年10月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は5のまま変化なし。「減少した」業種は5から4に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は9から11に増加。「減少した」業種は11から6に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は3のまま変化なし。「悪化した」業種は12から6に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は6から9に増加。「減少した」業種は8から2に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は10から7に減少。「減少した」業種は8から9に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は8から7に減少。「悪化した」業種は11から6に減少。

製造業

豆腐製造

【県内全域】

原材料、光熱費等の高騰に影響を受けて、豆腐業界が厳しい状況にあるとメディアが報道したため、製品値上げへの踏切が容易になると思われる。財務状況は依然厳しい状態が続いている。下期の巻き返しに期待する。

酒類製造

【県内全域】

需要期に入りつつあるも販売は低調。原材料高騰に伴う、値上げを宣言する組合員が多いが、流通の承諾得られず。実施の時期がずれこんでいる。

製材

【木更津】

輸入原木の在庫は減少している。10月16日に接近した台風16号の影響で組合企業に多大な損害が発生した。10月はロシア材の入港が1船であった。

印刷

【県内全域】

景況の変化について、10月の県内印刷企業受注売上は9月とほぼ同様に推移した模様である。但し10月の稼働日数は9月と比較して2〜3日多い事を考慮すると、景気が戻りつつあると考えるのは早計かもしれない。以前は業種ごとに好不況が分かれていたが、現在

は一つの業種の中で勝ち負けがついており、社会全体で景気回復を実感するのは、まだかなり先になりそうである。

電気鍍金

【県内全域】

政府の発表では、デフレ脱却で経済は前進していると認識を示している。また、雇用情勢等も改善の兆しが見えてきたと発表されているが、中小企業、小規模企業ではその実感が無い。

鉄工

【千葉】

組合員を対象とした動向調査は、受注増加先が倍増となったが、本来リンクすべき景況は依然として横ばい推移の結果となった。これは、仕入価格上昇の中で、販売価格転嫁困難から、収支圧迫要因が顕在化していることが大きな要因となっている。

機械部品製造

【野田】

全般的に受注が上向いたに見えるが、まだまだこの状況。業界動向は、政策の影響が少しある様子がかがえる。

機械部品製造

【流山】

石化製品の値上がりがあり、原材料の値上げがあり収益に影響がある。引き続き景気が良いのか、悪いのか分からない状況である。

【機械部品製造】

限定的に受注増とはなっていないものの、平成26年度は不透明。落ちる可能性あり。業界動向は、各得意先とも開発（新製品、コストダウン）の依頼は継続的にあり。大企業等の動きは、グローバル的に景気（ものの動き）減速気味。競争はますます激化。2極分化が進む。

【金属製品製造】

前年対比伸長している。しかし、利益体質の向上にはつながらない。業界動向は、船橋市と連携し、大規模商業施設に組合員の製品についての展示を検討中。

【採石】

上半期の実績は前年度比52.7%、今月も稼働は殆んど無く、今後も前年度並みの回復は厳しい。アベノミクスの波及効果は殆んど無い。このような中で消費税引き上げは致命傷にならうと危惧する。

【土砂採取】

今月は全体的に9月の状況と変わらない。前年同月比ではやや販売価格の上昇や、雇用人員の増加や景況が好転してきている地域がある。

【杣】

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】
【事務機器卸】消費増税に伴う、駆け込み特需が期待されているが、10月時点では現れていない。各社とも電気料金の引き上げ、円安に伴うガソリン価格の高止まりでコストアップ。今後、需要期に向かい収支圧迫が見込まれる。

【建築材料卸売】

【県内全域】
景況の変化について、人手不足、配送車不足が顕在化。景気回復・需要好転の前兆とも見受けられるが東京都心・東北に取られているのが主因。

【自動車解体】

【県内全域】
台風26号の水害で、水没した車が県内で発生。一部、廃車発生増。スクラップ単価は再び上昇の傾向あり。

【卸売】

【茂原】
地方市場での品物の動きは活発とはいえない。景気の動きも良くない。業界動向も変化ないが、組合員の倒産・廃業はない。

【小売】

【杣】
景況の変化は、物販は苦戦。組合員の数位は、自己破産の組合がでっており、周辺への影響が心配である。

【電気機器小売】

【県内全域】
景況の変化について、全体として、各店の売り上げにはばらつきがあり、雰囲気としてアベノミクスの影響か、消費税の決定か、好転している感じがする。

【青果小売】

【千葉】
台風の影響は先月同様続いて相場は、高値で安定してしまった。売上面では、先月よりやや少なかったが、相変わらず高水準である。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】
タマ不足も解消されつつあり、小売も多少上昇傾向になりつつある。依然として、輸出は好調で、アジア勢の躍進が目立った。来年4月からの消費税アップ前の駆け込み需要が期待される。

【小売】

【東金】
暖かい日が続き、秋物の動きが鈍かった。食品関係も円安影響により若干値上げ傾向にあり、品薄。日用品関連は、目立った新商品もなく低調が続いている。

【小売】

【野田】
景況の変化は、季節外れの暑さや豪雨などで、天候が落ち着かなかったせいも、秋物衣料の売上は低調だった。

【小売・サービス】

【杣】
景況の変化について、気候不順のわりには、極端に悪い事業者は少なく好感は全く感じていない。全体的にはまだまだ低額指向が強い。

【建設揚重】

【県内全域】
景況の変化は、稼働率は地域によって格差はあるが、概ね好調が続いている。一部の地域で供給不足が出ている。

【遊覧船】

【鴨川】
台風が発生に伴い、欠航が増えて客足が減少した。

【一般廃棄物処理】

【千葉】
ここ2～3年位は10月は安定した月であり、当月も同様となった。

【ソフトウェア】

【県内全域】
景況は、二進一退の状況。ただし、良い悪いが2極化してきているように思える。

【建設】

【県内全域】
当連合会加入組合員の受注は、1万1千956百万円であった。これは前月比でマイナス1千946百万円減少。前年同月比では、1千328百万円の増加であった。

【輸出入】

【県内全域】
10月は、前月比・前年同月比は増加し、景況感が大分良くなった。